

〈調査報告〉

中日の公私観念と人間関係

吉 星*

I. はじめに

1. 研究目的

公私観念はそれぞれの国の文化や歴史に深くかかわっている。その国の民族が長い歴史の中で作り上げた文化の違いによって、公私観も違っている。公私観は人間の実践的な空間に現れ、社会の発展に伴って、深化している。それをどこに発展するかはまた人間の実践によるものである。

グローバル化が急速に拡大している中、中日両社会の人的交流も一層深化し、互いに理解しにくいことや誤解も生じている。日本に暮らしている中国人にインタビューをしたところ、日本社会の人情味が薄いと答えてくれた。一方、中国で留学したことのある日本人学生にインタビューをした結果、中国では、人々の距離が近すぎて、落ち着かないということを語ってくれた。その要因としては、両社会公私観念の特徴にあるのではないだろうかと考えている。中日の公私観念はそれぞれの国の人々の人間関係にも大きな影響を与えていると考えられる。

本稿では中日両社会の公私観念の特徴とそれが人間関係にどのように影響するかを考察する。また、これまでに報告されてきた中日の公私観念に関する先行研究を援用しながら、考察

したいと思う。

2. 本論文の構成

本論文の構成は次のようである。第2章は先行研究、第3章からはアンケート調査と結果、その後は本研究の目的である。相手国に暮らしたことのない中日両社会の人々における人間関係の実態、そして、そこから見える公私観念との関係について考察する。

II. 先行研究

1. 中国における公私観念

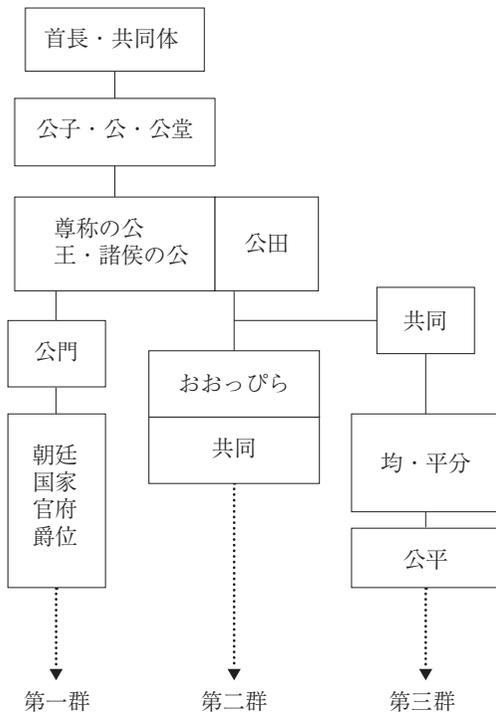
費孝通は中国人特有の公私観念を説明するのに、「差序格局」をはじめた。「差序格局」とは自分が中心となって、自分との関係の親疎に応じて人間関係のネットワークが形成されるという社会の在り方を指している。つまり中国は、自分を中心とした私人関係のネットワークという社会であると費は考えたのである。このような社会では外と自分との境界が相対的なものとなるように、公と私も相対的なものになる。すなわち、人は自分のために家を犠牲にでき、家のために一族を犠牲にできることになる。

このように、中国には公があるものの、それは自分から見れば家、家から見れば一族といったように、私との入れ子構造にある公である。

*長崎県立大学国際社会学部研修員、中国人民対外友好協会職員

つまり、中国の公は私に通じるものであり、そこには常に「私>公」ということが働いていることになる。¹ (費孝通、1948=2001、p26-30)

「公」の語は甲骨、金文の時代には、共同体の首長にかかわるものあるいはそれに対する尊称、また共同施設、所有物などを指していたが、戦国時代末期以降、公正、公平など倫理的な意味が新たに加わるようになり、その結果、「公」は次の図のように、首長にかかわる部分から公門、朝廷、政府、国家の意味(第一群)、共同体にかかわる部分から公田、公開、世間、社会、共同の意味(第二群)、そして、平分から均等、公平、公正の意味(第三群)がそれぞれ派生したと考えられる。いわば、第一群は公家や官府からの政治的な公で、第二群は共同大っぴらといった側面からの共同体的な公で、第三群は均平・反利己といった意味を持つ倫理的・原理的な公である。



これを日本の「おおやけ」と比べてみると、「おおやけ」には第一、二群の意味があり、この部分で共通しているが、第三群の平分すなわち公平な分配の意味は日本の「おおやけ」に加わらなかった。ひとり中国の「公」だけに見られる平分の独自部分が中国の「公」の際だった特徴として浮かび上がってくるのである。² (溝口、1996=2001、p35-37)

溝口は第二群に分類される「つながりとしての公」を個々の「私」に立脚した横つながりの公であると指摘する。「つながりとしての公」のもとでは、私は公に対して、使用や所有などの権利を保存しているとされる。いわば中国の公私観からは公物であっても私的利用に通じているのは当然という考え方なのである。第三群の「原理的・倫理的公」としては「天下」という原理性を持つ中国独自の概念である。これは天皇制を公の頂点とする日本とは違い、皇帝が天下万民の公に背いた場合には、民は天の視点にたつて、皇帝の政治を「一姓一家の私」と貶称することが許されるというものであり、易姓革命の原動力にもなった考え方である。つまり、天・天下の観点から皇帝・王朝・国家を私のレベルにおとしめることができる。³ (溝口、1996、p42)

溝口雄三も費孝通も中国の一般民衆の依拠する公は私に通じ、「私>公」との入れ子構造と捉えている点で一致している。

また、園田茂人は中国社会を「関係主義社会」⁴ (園田 2001、p195) と呼び、中国人は親族関係だけではなく、個人を中心にして関係を広げるように、知らない人とも新たな関係づくりに乗り出すと指摘した。⁵ (園田 2001、p172)

2. 日本における公私観念

近世史研究者の尾藤正英が明治維新以降現代

に至る日本の社会の諸要因が江戸時代に形成されていたと述べるように、日本における伝統的な公私観念が完成したのは近世である。⁶ (尾藤、1998)

前に述べたように、日本の「おおやけ」には第三群の公正・公平の意味が含まれていない。このため、日本では、第一、二群の朝廷、政府、国家、世間、社会の中で最大領域とされる国家あるいは最高位とされる天皇が最大あるいは最高の「おおやけ」＝「公」のレベルを占め、かつそれらは決して私とみなされることはなく、はっきり区別されている。⁷ (溝口 1996=2001、p41)

その結果、家の敷居の内側を最小の「私」の単位とし、国家を最大の「公」とする。領域の公私構造が日本の特質となった。すなわち家または自己Aを「私」とする時には、その私Aにとって、それが属する境域、集団Bが「公」となるが、そのBは自己が属するより大きな境域、集団Cに対しては、「私」となり、代わってCがBに対して「公」となる。このように公私はあるしきりによって重層的な関係構造を持つが、どの段階であれ、一方が「私」で他方が「公」である時には、その公私は領域として混じり合うことがない。つまり、私領域は公領域に対して独立的である。ある「家」＝「わたくし」＝「私」と、その家が属する「部落」＝「おおやけ」＝「公」との関係で見てみる。ここでは家はその家族、親族、姻戚までを含めて、部落からは一つの「私」単位として容認されている。この家にとって、部落の中の交際、部落の行事、及びその部落の上位の「公」からの要請などが公事となる。例えば、福沢諭吉の「地方公共の事」、すなわち冠婚葬祭、道路橋梁の普請などから年貢の上納、さらに明治時代以降は徴兵など国家の義務の負担までがそれである。⁸

(溝口、1996=2001、p49-50)

こうした公私の重層構造について、近世政治思想史研究者の田原嗣郎は「日本の「公・私」(上)・(下)」(1988)という論文の中でも指摘した。田原によれば、日本の伝統的な公私観念の特徴はまず何よりも「公(おおやけ)」を「私(わたくし)」の上位に置くことである。いわば、「公>私」といえよう。田原はより小さな共同体の「公」はその共同体が属する大きな共同体の「公」の前では「私」となる重層構造を持つとする。⁹ (田原嗣郎、1988)

社会の公という時の公領域は三つに分けられる。一つは自己または自己の家が属する居住地域、あるいは地方公共領域である。これをまとめて地域の公と言おう。次の一つは会社など生計を支えるための仕事場としての集団、あるいは労働組合など理念や利益を共有する集団。これらをまとめて集団の公と言おう。最後一つは自分と関係のない不特定の他人と向き合う世間。これを世間の公と言おう。伝統的な日本の公倫理においては、自分の属する地域、集団のために無私無条件に奉仕することを美德とさしている。また、日本では周りとの協調することが美德とされ、その場合、協調の筋目は道理と呼ばれる。この道理は理が原理的なものであるのと異なり、要するにその場の人々の多数か全員が妥協の線として承諾した。道理とは横並びの日本人のある最大公約数であり、これに従っている限り、異質なあるいは異端的な存在として排斥されることはない。一方、いかにそれが意見として正当な根拠を持つものであれ、横並びから突出した意見であれば、それは無視されるか排除される。¹⁰ (溝口、1996=2001、p53-56)

3. 仕切りの文化論

公共空間と私的空間のしきりは多数の人間と個人との関係を切り分け、そのことを意識化させる。公共空間と私的空間とのしきりは近代的な公私の分離を意味する。この公私の分離は単に個人と社会を意識化しただけではなく、家族の内部においても家族のメンバーに対して個人を分離することを意識化させた。こうした公私の分離が日本の住まいにおいても必要であることが主張される世になったのは1910年代末から20年代にかけてのことである。日本は個人と公的な空間とを分離するヨーロッパ的な間取りをそのまま導入したと言えよう。阿部謹也が指摘しているように、日本には近代的社会の概念ではない「世間」という概念が存在した。この「世間」とはいわば「外の様」である。「世間が許さない」という表現からもわかるように、この世間は家庭の外の場合もあるし、ある集団やある村の外の場合もある。つまり、内と外をしきる「世間」の概念は自在に動くものなのである。日本のしきりは相互に気配を感じさせる仕切りが多い。そのしきりは日本における人間関係のあり方を反映していた。¹¹ (柏木博、2004、p3-6)

Ⅲ. 調査

1. 調査目的

グローバル化が進んでいる中、中日間の人的交流も活発に行われるようになった。互いに理解しにくいことや不思議に思われることも生じた。そこには中日両社会における公私観念が関係しているのではないかと考える。例えば、「中国人はプライベートがないか、いつもべたべたくっついている」とか、「日本人と友達を作るのは難しいなあ」という言葉をよく耳にして、

日本人であっても、同じ日本人より、外国人と友達を作るのが簡単だとある学生に教えてもらった。したがって、両社会における人間関係の特徴に注目するようになった。これは両社会の公私観念とどのような関係性があるかについて、友達関係、家族関係(夫婦関係を含む)、恋人関係に分けて、調査結果をとともに考察したいと思う。

2. 調査概要

中日両社会の人々へのアンケート結果から、検討する。アンケート用紙の配布は相手国に暮らしたことの無い中日両社会の人々を対象に行った。有効回答数は100で、有効回答率は100%である。その内中国人が50人、日本人が50人である。調査期間は2018年12月21日～2019年1月17日である。分析はspssによるt検定と一元配置分散分析を行った。

3. 調査方法

本稿では、人間関係の実態を友達関係、家族関係、恋人関係、夫婦関係という四つの部分に分けて、合計20の質問を行い、中日両社会の違いを検討する。各質問の答えに対して、「まったくあてはまらない」「あまりあてはまらない」「どちらともいえない」「だいたいあてはまる」「大変よくあてはまる」の五段階評価で回答する形である。

問1から問4までは友達関係に対する考察である。問1から問4まではそれぞれ「本国では他人と友達になるのは難しいと思います」「本国では人との間に常に距離感が感じられます」「本国では他人に接近するのは難しいと思います」「親友との間にほぼ距離はありません」である。

問5から問8までは家族関係のうち、お年寄

りとの関係をめぐる考察である。問5から問8まではそれぞれ「本国では祖父母はよく孫の子育てを助けています」「本国では祖父母が長年孫の子育てを助けているのは普通だと思います」「本国では年配方同士にはいつも一緒に遊んでいるグループがあります」「ご自身はほぼおじいさんやおばあさんに育てられた」である。

問9から問11までは家族関係に対する考察である。問9から問11まではそれぞれ「父親と常に気を使いながら、会話します」「自分の趣味をあまり家族に言えません」「常に家族と少し距離を保っています」である。

問12から問15までは恋人関係に対する考察である。問12から問15まではそれぞれ「常に彼氏（彼女）と気を使いながら、会話します」「よくありのままの自分で彼氏（彼女）と付き合いします」「彼氏（彼女）と喧嘩したり、仲直りする内に、親しみになれます」「常に彼氏（彼女）のプライベートな領域に入らないように心がけています」である。

問16から問20までは夫婦関係に対する考察である。これはすでに結婚していらっしゃる方々のみに答えていただいた。問16から問20まではそれぞれ「ご自分の主人（奥さん）と常に気を使いながら、会話します」「主人さん（奥さん）のプライベートな領域に入らないように心がけています」「互いに各自のスペースを持っています」「互いにいつも喧嘩したり、仲直りしています」「互いに喧嘩したことがないです」である。質問の回答は中日の公私観念に関する先行研究を参考しながら、中日両社会の違いを検討する。

IV. 調査結果

図表1 中日両社会における人間関係の実態

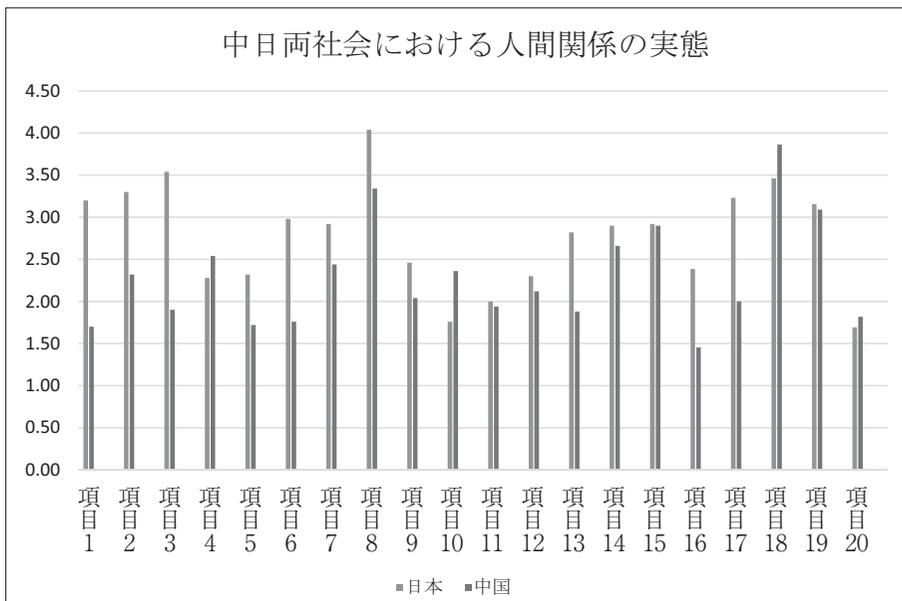
項目1	他人と友達になるのは難しいと思います。
項目2	人との間に常に距離感が感じられます。
項目3	他人に接近するのは難しいと思います。
項目4	親友との間にほぼ距離はありません。
項目5	祖父母はよく孫の子育てを助けています。
項目6	祖父母が長年孫の子育てを助けているのは普通だと思います。
項目7	年配方同士にはいつも一緒に遊んでいるグループがあります。
項目8	ご自身はほぼおじいさんやおばあさんに育てられた。
項目9	父親と常に気を使いながら、会話します。
項目10	自分の趣味をあまり家族に言えません。
項目11	常に家族と少し距離を保っています。
項目12	常に彼氏（彼女）と気を使いながら、会話します。
項目13	よくありのままの自分で彼氏（彼女）と付き合いします。
項目14	彼氏（彼女）と喧嘩したり、仲直りする内に、親しみになれます。
項目15	常に彼氏（彼女）のプライベートな領域に入らないように心がけています。
項目16	ご自分の主人（奥さん）と常に気を使いながら、会話します。
項目17	主人さん（奥さん）のプライベートな領域に入らないように心がけています。
項目18	互いに各自のスペースを持っています。
項目19	互いにいつも喧嘩したり、仲直りしています。
項目20	互いに喧嘩したことがないです。

図表2 中日両社会における人間関係の実態

		分散分析				
		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
項目 1	グループ間	56.250	1	56.250	68.478	0.000
	グループ内	80.500	98	0.821		
	合計	136.750	99			
項目 2	グループ間	24.010	1	24.010	27.559	0.000
	グループ内	85.380	98	0.871		
	合計	109.390	99			
項目 3	グループ間	67.240	1	67.240	69.422	0.000
	グループ内	94.920	98	0.969		
	合計	162.160	99			
項目 4	グループ間	1.690	1	1.690	1.330	0.252
	グループ内	124.500	98	1.270		
	合計	126.190	99			
項目 5	グループ間	9.000	1	9.000	7.808	0.006
	グループ内	112.960	98	1.153		
	合計	121.960	99			
項目 6	グループ間	37.210	1	37.210	35.030	0.000
	グループ内	104.100	98	1.062		
	合計	141.310	99			
項目 7	グループ間	5.760	1	5.760	4.866	0.030
	グループ内	116.000	98	1.184		
	合計	121.760	99			
項目 8	グループ間	12.250	1	12.250	6.555	0.012
	グループ内	183.140	98	1.869		
	合計	195.390	99			
項目 9	グループ間	4.410	1	4.410	2.764	0.100
	グループ内	156.340	98	1.595		
	合計	160.750	99			
項目10	グループ間	9.000	1	9.000	6.551	0.012
	グループ内	134.640	98	1.374		
	合計	143.640	99			
項目11	グループ間	0.090	1	0.090	0.072	0.789
	グループ内	122.820	98	1.253		
	合計	122.910	99			
項目12	グループ間	0.810	1	0.810	0.631	0.429
	グループ内	125.780	98	1.283		
	合計	126.590	99			
項目13	グループ間	22.090	1	22.090	16.568	0.000
	グループ内	130.660	98	1.333		
	合計	152.750	99			
項目14	グループ間	1.440	1	1.440	1.055	0.307
	グループ内	133.720	98	1.364		
	合計	135.160	99			

		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
項目15	グループ間	0.010	1	0.010	0.009	0.924
	グループ内	108.180	98	1.104		
	合計	108.190	99			
項目16	グループ間	7.069	1	7.069	11.361	0.002
	グループ内	20.531	33	0.622		
	合計	27.600	34			
項目17	グループ間	12.378	1	12.378	12.643	0.001
	グループ内	32.308	33	0.979		
	合計	44.686	34			
項目18	グループ間	1.321	1	1.321	1.289	0.264
	グループ内	33.822	33	1.025		
	合計	35.143	34			
項目19	グループ間	0.032	1	0.032	0.020	0.889
	グループ内	53.510	33	1.622		
	合計	53.543	34			
項目20	グループ間	0.129	1	0.129	0.119	0.733
	グループ内	36.042	33	1.092		
	合計	36.171	34			

図表3 中日両社会における人間関係の実態のグラフ (n = 100)

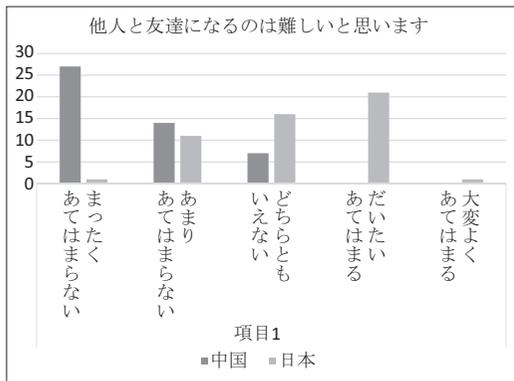


本稿では、人間関係の実態を友達関係、家族関係、恋人関係、夫婦関係という四つの部分に分けて、合計20の質問を行い、中日両社会の違

いを検討する。項目4、5、6、7、8、13、14、19を逆にして分析を行った。20項目に有意確率を調べたところ（図表1）、「項目1」、「項

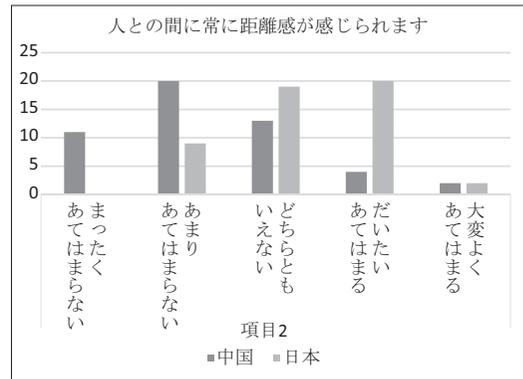
目2]、「項目3]、「項目5]、「項目6]、「項目13]、「項目16]、「項目17]において有意差がみられた。(df=1、p<0.01)。図表3によって、数字が高ければ高いほど、人間関係が薄くなることが示されている。これからは以上の八つの項目を要約してから、先行研究を踏まえながら分析する。

図表4 項目1における中日間の実態 (n=100)



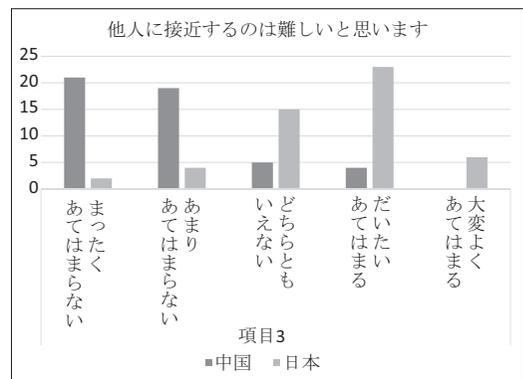
中日両社会の人々を対象に「項目1」=「他人と友達になるのは難しいと思います」についての調査を行った。調査者100人のうち、「まったくあてはまらない」と答えた人のうち、中国人が27人、日本人が1人で、中国人が圧倒的に多い。「あまりあてはまらない」と答えた人のうち、中国人が14人、日本人が11人で、中国人のほうも多い。「どちらともいえない」と答えた人のうち、中国人が7人、日本人が16人である。「だいたいあてはまる」と答えた人のうち、中国人が1人、日本人が21人で、「たいへんよくあてはまる」と答えた人のうち、中国人が0人、日本人が1人で、いずれも日本人のほうが圧倒的に多い。この結果により、友達作りにおいては、中国人より日本人のほうがもっと難しいと感じられることが分かった。

図表5 項目2における中日間の実態 (n=100)



中日両社会の人々を対象に「項目2」=「人との間に常に距離感が感じられます。」についての調査を行った。調査者100人のうち、「まったくあてはまらない」と答えた人のうち、中国人が11人、日本人が0人で、「あまりあてはまらない」と答えた人のうち、中国人が20人、日本人が9人で、いずれも中国人のほうが圧倒的に多い。「どちらともいえない」と答えた人のうち、中国人が13人、日本人が19人である。「だいたいあてはまる」と答えた人のうち、中国人が4人、日本人が20人で、日本人のほうが圧倒的に多い。「たいへんよくあてはまる」と答えた人のうち、中国人が2人、日本人が2人である。この結果により、中国人より日本人のほう

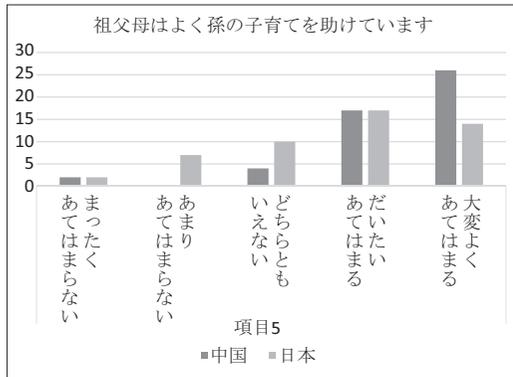
図表6 項目3における中日間の実態 (n=100)



が他人との距離感が深く感じられることが分かった。

中日両社会の人々を対象に「項目3」＝「他人に接近するのは難しいと思います」についての調査を行った。調査者100人のうち、「まったくあてはまらない」と答えた人のうち、中国人が21人、日本人が2人で、「あまりあてはまらない」と答えた人のうち、中国人が19人、日本人が4人で、いずれも中国人のほうが圧倒的に多い。「どちらともいえない」と答えた人のうち、中国人が5人、日本人が15人である。「だいたいあてはまる」と答えた人のうち、中国人が4人、日本人が23人で、「たいへんよくあてはまる」と答えた人のうち、中国人が1人、日本人が6人で、いずれも日本人のほうが圧倒的に多い。この結果により、中国人より日本人のほうが他人に接近するのがもっと難しいと感じられる。

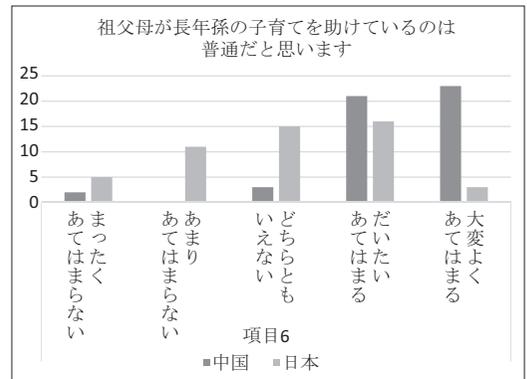
図表7 項目5における中日間の実態 (n = 100)



中日両社会の人々を対象に「項目5」＝「祖父母はよく孫の子育てを助けています」についての調査を行った。調査者100人のうち、「まったくあてはまらない」と答えた人のうち、中国人が2人、日本人が2人で、「あまりあてはまらない」と答えた人のうち、中国人が1人、日本人が11人で、「どちらともいえない」と答えた人のうち、中国人が3人、日本人が15人である。「だいたいあてはまる」と答えた人のうち、中国人が21人、日本人が16人である。「たいへんよくあてはまる」と答えた人のうち、中国人が23人、日本人が3人で、中国人のほうが圧倒的に多い。この結果により、祖父母の子育てへの参与度について、日本人より中国人のほうが高いことが分かった。

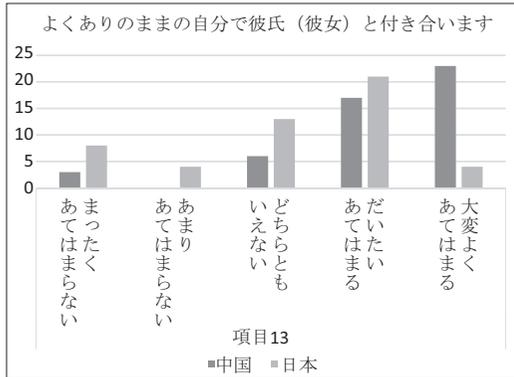
本人が7人で、「どちらともいえない」と答えた人のうち、中国人が4人、日本人が10人である。「だいたいあてはまる」と答えた人のうち、中国人が17人、日本人が17人である。「たいへんよくあてはまる」と答えた人のうち、中国人が26人、日本人が14人で、中国人のほうが圧倒的に多い。この結果により、祖父母の子育てへの参与度について、日本人より中国人のほうが高いことが分かった。

図表8 項目6における中日間の実態 (n = 100)



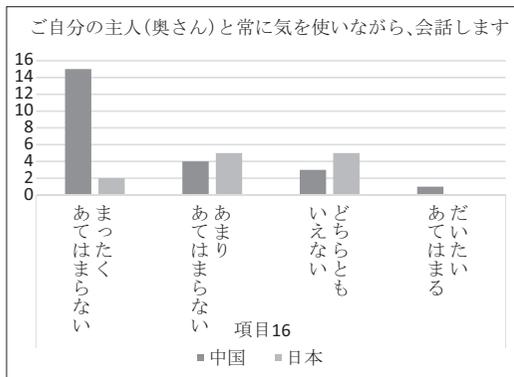
中日両社会の人々を対象に「項目6」＝「祖父母が長年孫の子育てを助けているのは普通だと思います。」についての調査を行った。調査者100人のうち、「まったくあてはまらない」と答えた人のうち、中国人が2人、日本人が5人で、「あまりあてはまらない」と答えた人のうち、中国人が1人、日本人が11人で、「どちらともいえない」と答えた人のうち、中国人が3人、日本人が15人である。「だいたいあてはまる」と答えた人のうち、中国人が21人、日本人が16人である。「たいへんよくあてはまる」と答えた人のうち、中国人が23人、日本人が3人で、中国人のほうが圧倒的に多い。この結果により、祖父母の子育てへの参与度について、日本人より中国人のほうが高いことが分かった。

図表9 項目13における中日間の実態 (n = 100)



中日両社会の人々を対象に「項目13」=「よくありのままの自分で彼氏(彼女)と付き合います」についての調査を行った。調査者100人のうち、「まったくあてはまらない」と答えた人のうち、中国人が3人、日本人が8人で、「あまりあてはまらない」と答えた人のうち、中国人が1人、日本人が4人で、「どちらともいえない」と答えた人のうち、中国人が6人、日本人が13人である。「だいたいあてはまる」と答えた人のうち、中国人が17人、日本人が21人である。「たいへんよくあてはまる」と答えた人のうち、中国人が23人、日本人が4人で、中国人のほうが圧倒的に多い。この結果により、恋

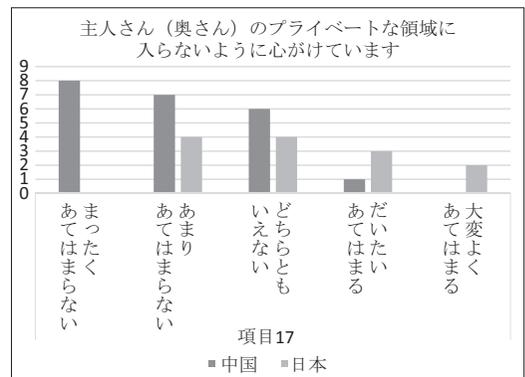
図表10 項目16における中日間の実態 (n = 35、中国人: 23; 日本人: 12)



人同士における付き合い方について、日本人カップルより中国人カップルのほうがよく素顔を出して相手と付き合っていることが分かった。

中日両社会の人々を対象に「項目16」=「ご自分の主人(奥さん)と常に気を使いながら、会話をします」についての調査を行った。調査者35人のうち、「まったくあてはまらない」と答えた人のうち、中国人が15人、日本人が2人で、「あまりあてはまらない」と答えた人のうち、中国人が4人、日本人が5人で、「どちらともいえない」と答えた人のうち、中国人が3人、日本人が5人である。「だいたいあてはまる」と答えた人のうち、中国人が1人、日本人が0人で、「たいへんよくあてはまる」と答えた人のうち、中国人も日本人も0人である。この結果により、夫婦における付き合い方について、中国人夫婦がよく素顔で相手と付き合っていることが分かった。日本人は何方でもないという中間的な位置にあることが分かった。

図表11 項目17における中日間の実態 (n = 35、中国人: 22; 日本人: 13)



中日両社会の人々を対象に「項目17」=「主人さん(奥さん)のプライベートな領域に入らないように心がけています。」についての調査

を行った。調査者35人のうち、「まったくあてはまらない」と答えた人のうち、中国人が8人、日本人が0人で、「あまりあてはまらない」と答えた人のうち、中国人が7人、日本人が4人で、いずれも中国人のほうが圧倒的に多い。「どちらともいえない」と答えた人のうち、中国人が6人、日本人が4人である。「だいたいあてはまる」と答えた人のうち、中国人が1人、日本人が3人で、「たいへんよくあてはまる」と答えた人のうち、中国人が0人、日本人が2人で、いずれも日本人のほうが圧倒的に多い。この結果により、夫婦における付き合い方について、日本人夫婦より、中国人夫婦がもっと親密的であることが分かった。

V. 考 察

調査により、項目1の「他人と友達になるのは難しいと思います」、項目2の「人との間に常に距離感が感じられます」、項目3の「他人に接近するのは難しいと思います」における中日間の大きな差が見られた。これに対して、中国人の答えが「他人と友達になるのは難しくない」、「人との間に距離感が感じられない」、「他人に接近するのは難しくないと思います」に集中している一方、日本人の答えが「他人と友達になるのは難しい」、「人との間に常に距離感が感じられます」、「他人に接近するのは難しいと思います」に集中していることが分かった。項目5「祖父母はよく孫の子育てを助けています」、項目6「祖父母が長年孫の子育てを助けているのは普通だと思います」における中日間の差も見られた。家庭内におけるお年寄りと次世代との絆について、日本人より中国人のほうが強いことが分かった。項目13「よくありのままの自分で彼氏(彼女)と付き合います」、項

目16「ご自分の主人(奥さん)と常に気を使いながら、会話します」、項目17「主人さん(奥さん)のプライベートな領域に入らないように心がけています」における中日間の差も見られた。カップルや夫婦関係において、日本人より中国人のほうがもっと親しいことが分かった。費孝通(1948)によれば、中国人特有の公私観念を説明するのに、中国人自分が中心となって、自分との関係の親疎に応じて人間関係のネットワークが形成されるという社会の在り方を指している。つまり中国は、自分を中心とした私人関係のネットワークという社会であると費は考えたのである。そのうえ、園田茂人(2001)は中国社会を「関係主義社会」と呼び、中国人は親族関係だけではなく、個人を中心にして関係を広げるように、知らない人とも新たな関係づくりに乗り出すと指摘した。こうした中国の公私観念があるからこそ、中国人は友達関係においてはいつも積極的で乗り出しているのではないだろうかと考えている。したがって、他人との距離感なども感じられなくなり、他人と接近することや、友達になることはおそらくそんなに難しくなくなる。

また、溝口雄三も費孝通も中国における公は私に通じるものであり、公と私をはっきり区別されていないと指摘した。「亲密无间=親密で少しの隔たりもない」という言葉が示したように、家族(夫婦を含む)はともかく、カップルや友達などといった親しい関係が結ばれた以上、皆親密で少しの隔たりもないと言っても過言ではない。

つまり、費孝通(1948)と園田茂人(2001)が示した中国特有の公私観念が本稿の調査結果にも表れたととらえることができる。

一方、日本では、朝廷、政府、国家、世間、社会の中で最大領域とされる国家あるいは最高

位とされる天皇が最大あるいは最高の「おおよけ」=「公」のレベルを占め、かつそれらは決して私とみなされることはなく、つまり、日本では、公と私はあるしきりによってはっきり区別されている。こうした領域の公私構造が日本の特質であると溝口健三(1996)が指摘した。このように公私はあるしきりによって重層的な関係構造を持つが、どの段階であれ、その公私はあるしきりによって、混じり合うことがない。このしきりによる公私の分離は単に個人と社会を意識化しただけではなく、家族の内部においても家族のメンバーに対して個人を分離することを意識化させた。そこから見れば、日本における家族関係やカップル関係といった親しい関係であっても、あるしきりによって、各自のスペースが守られている。

また、溝口健三は日本社会の公を説明する時に、世間という概念を挙げた。自分と関係のない不特定の他人と向き合うことを世間の公と言う。日本では周りと協調することが美徳とされ、要するにその場の人々の多数か全員が妥協の線として承諾した。つまり、これに従わなければ、異質なあるいは異端的な存在として排斥されることになる。こういう観念のもとに、日本人も単に自分の好き嫌いで積極的に他人に接近することはないだろう。

VI. おわりに

この論文を書くにあたって、相手国に暮らしたことのない中日両社会の人々を対象に、各自国における人間関係の実態に関する調査をした。今回の調査においては、学生が53人、会社員が7人、公務員が25人、自営業が1人、専門職が2人、教師が10人、無職が2人という組み合わせで、ほぼ学生を中心となって調査を行っ

たが、そのほかの職業に関しては、生活してきた社会の経済や文化も違うため、また異なる人間関係がみられるので、より幅広い範囲の人々の人間関係を研究することで研究の精度を上げる必要があるだろう。

注

- 1 費孝通(1948):『郷土中国』観察社。
———2001、鶴間和幸・市来弘志・上田信・王瑞来・川上哲正・武内房司訳『郷土中国(調査研究報告49)』学習院大学東洋文化研究所、26-30ページ。
- 2 溝口雄三(1996):『公私』三省堂。
———2001、「中国思想史における公と私」佐々木毅・金泰昌編『公共哲学Ⅰ『公と私の思想史』東京大学出版会、35-37ページ。
- 3 溝口雄三(1996):『公私』三省堂。
———2001、「中国思想史における公と私」佐々木毅・金泰昌編『公共哲学Ⅰ『公と私の思想史』東京大学出版会、42ページ。
- 4 園田茂人(1988):「中国的<関係主義>に関する基礎的考察」『ソシオロギス』12:54-67
———2001、『中国人の心理と行動』日本放送出版協会、195ページ。
- 5 園田茂人(1988):「中国的<関係主義>に関する基礎的考察」『ソシオロギス』12:54-67
———2001、『中国人の心理と行動』日本放送出版協会、172ページ。
- 6 尾藤正英(1998):「新しい国家を支えた公共性の理念」、『元禄時代がわかる』、朝日新聞社。
- 7 溝口雄三(1996):『公私』三省堂。
———2001、「中国思想史における公と私」佐々木毅・金泰昌編『公共哲学Ⅰ『公と私の思想史』東京大学出版会、41ページ。
- 8 溝口雄三(1996):『公私』三省堂。
———2001、「中国思想史における公と私」佐々木毅・金泰昌編『公共哲学Ⅰ『公と私の思想史』東京大学出版会、49-50ページ。
- 9 田原嗣郎(1988):「日本の「公・私」(上)・(下)」、『文学』VOL.56、岩波書店。
- 10 溝口雄三(1996):『公私』三省堂。
———2001、「中国思想史における公と私」佐々木毅・金泰昌編『公共哲学Ⅰ『公と私の思想史』東京大学出版会、53-56ページ。
- 11 柏木博(2004):『「しきり」の文化論』、講談社現代新書、3-6ページ。

引用文献

- ① 費孝通(1948):『郷土中国』観察社。
———2001、鶴間和幸・市来弘志・上田

- 信・王瑞来・川上哲正・武内房司訳『郷土中国（調査研究報告49）』学習院大学東洋文化研究所）、ページ26-30。
- ② 溝口雄三（1996）：『公私』三省堂。
 ——2001、「中国思想史における公と私」
 佐々木毅・金泰昌編『公共哲学Ⅰ『公と私の思想史』東京大学出版会、ページ35-56。
- ③ 園田茂人（1988）：「中国的＜関係主義＞に関する基礎的考察」『ソシオロギス』12：54-67
 ——2001、『中国人の心理と行動』日本放送出版協会、ページ172、195。
- ④ 尾藤正英（1998）：「新しい国家を支えた公共性の理念」、『元禄時代がわかる』、朝日新聞社。
- ⑤ 田原嗣郎（1988）：「日本の「公・私」」（上）・（下）、『文学』VOL.56、岩波書店。
- ⑥ 柏木博（2004）：『「しきり」の文化論』、講談社現代新書、ページ3-6。

参考文献

- 費孝通（1948）：『郷土中国』観察社。
 ——2001、鶴間和幸・市来弘志・上田信・王瑞来・川上哲正・武内房司訳『郷土中国（調査研究報告49）』学習院大学東洋文化研究所）。
- 溝口雄三（1996）：『公私』三省堂。
 ——2001、「中国思想史における公と私」
 佐々木毅・金泰昌編『公共哲学Ⅰ『公と私の思想史』東京大学出版会。
- 園田茂人（1988）：「中国的＜関係主義＞に関する基礎的考察」『ソシオロギス』12：54-67
 ——2001、『中国人の心理と行動』日本放送出版協会。
- 尾藤正英（1998）：「新しい国家を支えた公共性の理念」、『元禄時代がわかる』、朝日新聞社。

巻末資料

中日両社会における人間関係の実態についてのアンケート

この度、中日両社会における人間関係の実態を探り、今後互いによく理解しあうことを目的として、アンケートを実施することになりました。つきましては、ご多忙中恐れ入りますが、以下のアンケートにお答えいただき、率直なご意見をお聞かせください。

1.あなたご自身のことについてお伺い致します。

性別	<input type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> 男性	国籍	<input type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> 中国	婚姻	<input type="checkbox"/> 既婚 <input type="checkbox"/> 未婚
年齢	<input type="checkbox"/> 10代 <input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60代				
職業	<input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> 会社員 <input type="checkbox"/> 公務員 <input type="checkbox"/> 主婦 <input type="checkbox"/> 自営業 <input type="checkbox"/> 専門職 <input type="checkbox"/> 教師 <input type="checkbox"/> 無職				

2.以下の質問事項について、1から5まで、あてはまると思われる一つの答えに○をつけてください。

(1.まったくあてはまらない 2.あまりあてはまらない 3.どちらともいえない 4.だいたいあてはまる 5.大変よくあてはまる)

項目	× ← どちらも → ○				
質問 1. 本国では他人と友達になるのは難しいと思います。	1	2	3	4	5
質問 2. 本国では人との間に常に距離感が感じられます。	1	2	3	4	5
質問 3. 本国では他人に接近するのは難しいと思います。	1	2	3	4	5
質問 4. 親友との間にほぼ距離はありません。	1	2	3	4	5
質問 5. 本国では祖父母はよく孫の子育てを助けています。	1	2	3	4	5
質問 6. 本国では祖父母が長年孫の子育てを助けているのは普通だと思います。	1	2	3	4	5
質問 7. 本国では年配方同士にはいつも一緒に遊んでいるグループがあります。	1	2	3	4	5
質問 8. ご自身はほぼおじいさんやおばあさんに育てられた。	1	2	3	4	5
質問 9. 父親と常に気を使いながら、会話をします。	1	2	3	4	5

質問 10. 自分の趣味をあまり家族に言えません。	1	2	3	4	5
質問 11. 常に家族と少し距離を保っています。	1	2	3	4	5
質問 12. 常に彼氏(彼女)と気を使いながら、会話をします。	1	2	3	4	5
質問 13. よくありのままの自分で彼氏(彼女)と付き合います。	1	2	3	4	5
質問 14. 彼氏(彼女)と喧嘩したり、仲直りする内に、親しみになれます。	1	2	3	4	5
質問 15. 常に彼氏(彼女)のプライベートな領域に入らないように心がけています。	1	2	3	4	5

結婚していっしょに生活している方々のみご記入をお願いいたします。

以下の質問事項について、1 から 5 まで、あてはまると思われる一つの答えに○をつけてください。

質問 16. ご自分の主人(奥さん)と常に気を使いながら、会話をします。	1	2	3	4	5
質問 17. 主人さん(奥さん)のプライベートな領域に入らないように心がけています。	1	2	3	4	5
質問 18. 互いに各自のスペースを持っています。	1	2	3	4	5
質問 19. 互いにいつも喧嘩したり、仲直りしています。	1	2	3	4	5
質問 20. 互いに喧嘩したことがないです。	1	2	3	4	5

※アンケートの使用目的

このアンケートにご記入いただいた個人情報は厳重に保管し、ぜひともご協力ください。

謝辞

今回、本研究をするにあたり、吉光正絵教授に長期間にわたり熱心なご指導を賜り、心から感謝申し上げます。また、アンケート調査にご協力くださいました中日両社会の人々に衷心より感謝の意を申し上げます。簡単ではございますが、謝辞とかえさせていただきます。